

青峰同窓会会報

青峰同窓会ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)のお知らせ

卒業生の皆様、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。青峰同窓会では、卒業生の皆様、教職員、および在校生を対象とし、会員の皆様の間で交流を深めていただくための青峰同窓会SNSを開発しております。皆様に広く利用していただけますようお願いいたします。このSNSでは、登録会員の皆様全てにマイホームページを所有していただいたり、クラスやクラブ、卒業研究室単位、あるいは共通の趣味を持たれている同士など、色々なお仲間コミュニティを持っていただいたり、会員宛にイベント告知などができる機能があります。

まずは、下記URLより、手順に従ってご登録をお願いいたします。皆様の活発な交流がなされる事を願っています。

◆SNSの登録方法 <http://seiho-dosokai.jp/>

1 鈴鹿高専青峰同窓会SNSへのアクセス
 はじめて利用される方はこちらから新規登録を行って下さい。

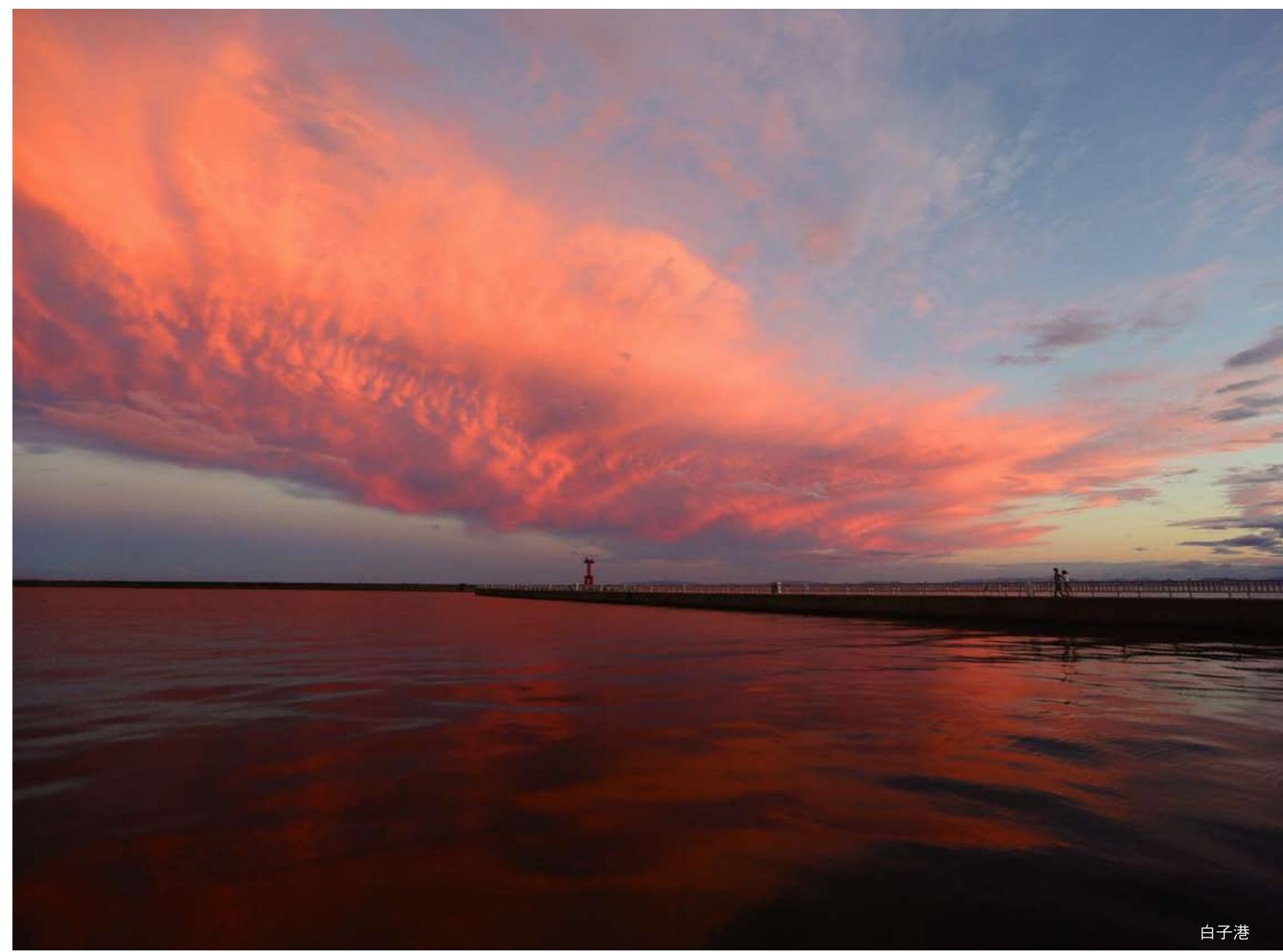
2 メールアドレスの入力
 いつも使うメールアドレスを入力して下さい。入力したメールアドレスは SNS ヘログインする際に使用します

3 確認キーワードの入力
 確認キーワードを入力し、送信をクリックします。

4 SNS招待状メールの受け取りと参加申請
 登録したメールアドレスに seiho-openpne@seiho-dosokai.jp から SNS 招待のお知らせメールが届きます。
 はじめて利用される方はこちらから新規登録を行って下さい。
 ※申請承認完了までに半日程度お時間をいただく場合がございます

5 登録完了のお知らせメールの受け取りとSNSへの参加
 ここから、参加して下さい

登録したメールアドレス、パスワードを入力しログインして下さい。以上となります。



白子港

INDEX

会長挨拶.....1	定年退職を迎えて.....8
元学校長 矢野 弥先生の卒寿お祝いの会...1 大西 正博(42C卒)	■細野 信幸(教養教育科) ■生貝 初(生物応用化学科) ■西岡 将美(教養教育科) ■藤田 時子(総務課長)
リオ五輪に出場して.....3 衛藤 昂(h23S卒)	新任教員挨拶.....12
卒業生便り.....4	■長井みゆき(教養教育科) ■橋本 良介(電気電子工学科) ■澤田 圭樹(教養教育科)
■2016年、陸上部OB大集合 山本 俊二(47E卒)	鈴鹿高専OGの集い.....14
■第2回鈴鹿高専OBゴルフコンペ開催 実行委員会事務局	訃報 [出口 芳孝 先生]14
■「鈴鹿高専茶道サークルOB会50年の歩み」 香風会	青峰同窓会 SNS のお知らせ.....15
■電気工学科47年卒のクラス会 京都 聖護院御殿荘にて 南井三治・武村聡史(47E卒)	

ご挨拶

青峰同窓会 会長 小手川 智 (42C卒)

同窓会会員の皆様にはお変わりなくご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年は熊本地震や台風による災害が多発しましたが大丈夫でしたでしょうか。

先ず卒業生に関わることで大ニュースがありましたのでご報告します。今年開催されたりオデジャネイロオリンピックの陸上競技走り高跳びに母校の卒業生衛藤昂君 (h23S卒) が出場されました大快挙でございます。昨年の会報に出場を目指して頑張れとエールを送りましたが正真正銘の正夢となりました。この地方の新聞におきましては鈴鹿高専出身の異色の選手として驚きをもって報道されました。



衛藤君は今年6月の日本陸上選手権において2m29cm(自己最高記録並びにオリンピック参加標準記録)を見事にクリアして選手権優勝とオリンピック出場を見事に果たされました。オリンピックでは惜しくも決勝進出はなりませんでしたが4年後の東京オリンピック

クの出場を目標に頑張ると力強くおっしゃっております。嬉しいことに現在も衛藤君の練習拠点は鈴鹿高専であります。帰国後開催された岩手国体においても見事に優勝されました。走り高跳びのトップアスリートとしてこれからの活躍をご注目ください。

卒業生の活動をご紹介します。以前にもご報告しましたが鈴鹿高専テクノプラザを立ち上げて3年ほど経過しました。理事等の役職は卒業生が多く鈴鹿高専OBと教官の皆さんが中心になって運営しております。設立の目的は産学官連携で地域の中堅、中小企業との共同研究や技術相談、技術支援です。この活動の中から特許出願も進んでおります。平成28年度で企業会員60社、特別会員11機関となり徐々に拡大が進んでおります。詳細は鈴鹿高専のホームページをご覧ください。卒業生の皆さんがお勤めの会社に関心のお有り方はご一報下されれば幸いです。

今年も学生会主催による高専祭が開催されます例年10月に開催です。ウオーターボーイズのショーや学科展示、バザーなど華やかなものとなっております。登校されて恩師に元気な姿を見せるのも「恩師孝行」になります。母校の歴史の品々を展示する「イノベーションプラザ」も是非ご覧になってください。高専祭の期間に合わせてクラス会を開いて頂くのも良いかと思っております。同窓会会員の皆様には今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を記念してご挨拶といたします。

(電子情報工学、現都城高専校長)、中村 正夫先生(工業化学)の先生方とゲストとして、長谷川俊男さん(42M)、長井 昭さん(44M)、伊藤栄一さん(48E)、下野幸助さん(H9E,県会議員)が参加されました。

準備期間が2年程取れましたので、記念になるものの制作を相談した結果、1.「ご卒寿記念、懐かしのアルバム」DVDの作成と 2.「ご卒寿お祝いメッセージ集」を作成することになりました。1. 懐かしのアルバムでは、1) 1期生の電通学園内仮校舎の様子、授業風景、2) 学生生活、体育祭、文化祭行事、3) 同窓会、クラス会、4) 剣道部活動での先生のご様子、5) 各年度の卒業生の写真、資料などを、42C野村さんを中心に学校の倉庫や卒業生から集め、最終的に工化9期生で現鈴鹿高専教授の澤田善秋先生と中川元斗さん(H23B, 生物応用化学科、技術職員)に編集いただいて、放映時間約20分の立派なDVDが完成しました。2. 「お祝いメッセージ集」は各年度実行委員に担当いただいて、先生の思い出に残る講義や課外活動、懇親会、クラブ活動でのエピソードを中心に、50年前から現在に至る各メンバーと先生との思い出一杯のメッセージ集が完成し、会の中で先生に手渡されました。

「お祝いの会」では、40~50年ぶりの再会となって、面影が卒業当時と大きく変化した方もあり、最初は戸惑いがありましたが、すぐに昔に戻って、無事を喜び合いました。開会前に全員を2組に分けて、記念写真を撮影後、会がスタートしました。43C清水君、47C加藤君、49C松岡君の司会チームによる軽快な司会進行で、小手川同窓会会長による開会の挨拶、中村先生による乾杯の後、「懐かしのアルバム」のDVDを鑑賞し、各場面での思い出などを語り合って皆昔に戻り、会話

が弾んで大いに盛り上がりました。各年度のメンバーからのメッセージと先生方からのご挨拶などを交互にお話ししていただいた後、矢野先生から皆様に感謝の言葉が述べられました。先生のお話しの要点を、以下に記述します。

1. 鈴鹿高専の教官1期生は木村学校長以下9名でしたが、今生きている者は、歴史の水野先生と私の2人のみとなりました。
2. 昭和40年11月に鈴鹿高専で当時聖路加国際病院内科医長であった日野原重明先生が「心とからだの科学—転換する医学の動向」という題で講演されました。日野原先生のお話しを直接お聞きした自分もあやかり、百歳くらいまで生きたいと思いました。(日野原先生は現在104歳です。)
3. 卒業生が「先生がいつまでも健やかに」と願って、このような催しを計画されたことを、鈴鹿高専の教育の原点はここにあったと、私は大変嬉しく思っています。

会の終盤には卒業時と変わらぬ元気を維持されている、女子卒業生から、花束と記念品が贈呈され、伝統ある校歌と工化応援歌の映像を見ながら、元音楽部の加藤君(47C)の指揮で全員合唱しました。閉会にあたり、今回は矢野先生の白寿時に今回規模のお祝いの会を催すこととし、それまで、先生と卒業生共に、健康を維持して再会することを、確認しあいました。会終了後はホテルのバーで2次会に移り、元気に飲み語って大満足で終了しました。工化同門会では今後毎年、先生の健康を確認しながら、地域のメンバーを中心にミニ同門会を開催していく予定です。ご都合のつく方の参加をお待ちしております。

元学校長 矢野 弥先生の卒寿お祝いの会

大西 正博 (42C卒)

応援：野村 英司(42C卒)、小手川 智(42C卒)、祖父江 利夫(43C卒)

平成27年11月7日(土)に四日市市のプラトンホテル四日市で、元学校長 矢野 弥先生の「卒寿お祝いの会」を開催しました。

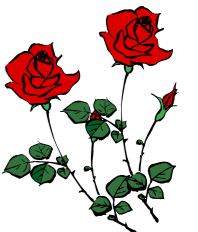
矢野先生には、2年前に「米寿お祝いの会」を提案させていただいたのですが、先生は大変お元気で、米寿でなく、卒寿で頼むとのご意見でありましたので、「卒寿お祝いの会」で計画を進めることになりました。集合メンバーは、矢野先生が担任を受け持たれた42C(1期生)から52C(11期生)までを対象に、鈴鹿高専工化同門会メンバーと旧教職員に声を掛けた結果、教職員9名と卒業生117名、合計126名の参加者となりました。



野村 武先生(英語)、勝田 叡先生(体育)、都築 正則先生(ドイツ語)、斉藤 洪一先生(数学)、桑原 裕史先生

矢野 弥 先生 卒寿祝賀会

於：プラトンホテル四日市 平成27年11月7日



リオ五輪に出場して

衛藤 昂 (h23S卒)

まず初めに、リオ五輪への挑戦にあたり、たくさんのご支援、ご声援いただきました鈴鹿高専青峰同窓会の皆様に感謝申し上げます。鈴鹿高専の校訓であります「世界に羽ばたくエンジニア、鈴鹿から世界へ羽ばたく人材」として高専初の“夏季オリンピック”になれたことを非常に嬉しく思います。

昨年出場した世界選手権から参加標準記録が1cm上がり、オリンピックに参加するためには2m29cmの記録が必要となりました。2015年シーズンを終えた10月から約9ヶ月、まずはこの1cmを超えるために半年間に及ぶ冬季トレーニングに挑みました。この冬季は意識改革を謀るため、大きな経験“アメリカ単身武者修行”を敢行しレベルアップを狙いました。アメリカではロンドン五輪銀メダリストの体格、筋力に圧倒される日々でしたが、彼らの強さの秘訣を知れたこと、そして同じオリンピックを目指すものとして同じ時間を共にできたことはとても良い経験になりました。

充実した冬季を過ごし、自信を持って迎えた2016年シーズンでしたが、4月、5月ともに天候に恵まれなかったこと、技術的に不安定なことが重なり2m23cmしかマークすることができませんでした。



で集中力を切らすことなく「絶対にオリンピックに行く」という気持ちだけで跳んだ。それだけだと思っています。

喜びもつかの間、オリンピックまで1ヶ月弱の中で、表敬訪問や壮行会等タイトなスケジュールで過ごしているうちにオリンピックがやってきました。その勢いに流され、走り高跳びの予選が始まり2m17cmを跳び、

2m22cmを落として予選敗退。今思えば時間軸がずれていたのではないかと思います。オリンピックはあつという間の出来事でした。しかし、1アスリートとしてこの舞台に立てたこと、またアメリカで練習を共にした選手・コーチとの再会の約束を果たせたことは何より嬉しいことでした。

4年後は東京オリンピックがやってきます。自分の中では技術的にも、年齢的にもまだまだ行けると思っています。また鈴鹿を拠点に1から精進して参りますので、今後ともよろしく願いいたします。



5月末のヨーロッパ遠征でも記録を伸ばせず苦しい時間が続きました。その中で、6月初旬の鈴鹿市記録会で2m25cmをクリアし、参加標準の2m29cmに挑戦できたことが“ラストチャンス＝日本選手権(6月末)”に向けて唯一の希望でした。迎えた日本選手権は、身体の状態も良く、前日まで降り続いていた雨が嘘のように晴れ、これ以上ない好天に恵まれました。試合内容は割愛させていただきますが、一言で表すと、最後ま

卒業生便り



2016年、陸上部OB大集合

山本 俊二 (47E卒)

(1) はじめに

鈴鹿高専は、昭和42年3月の一期生卒業から早や50年、半世紀の歴史を語れる学校になってきた。このよき機会に、陸上部も大集合を果たした。恩師と一期生から二十期生まで40名、親子ほども年齢差がある元陸上部部員が、2016年1月30日、鈴鹿市白子に集合した。

恩師勝田叔先生の傘寿の祝い一つの区切りにして、皆集合しようと企画を開始。企画メンバーは、会長を五期生本郷政人、幹事を六期生山本俊二、松井修、十二期生伴茂昭、十三期生内山賢一とした。裏方5名でのスタートである。

まずは、だれがどこに住んでいるかの確認から。コンプライアンスの関係上、個人情報の把握が実に大変であった。勝田先生の情報、豊嗣先輩の情報、内山君の情報のほか、年賀状のやり取りなど個人個人でお持ちの情報を、ご了解いただける範囲で収集した。その中で、さまざまなドラマがあった。入学当時のごく古情報をもとに手紙を出したところ、親御さんが健在で息子に転送して下さった好例、日を改めた再三の電話コールでも応答がない例、既に故人となっておられた例など、悲喜こもごもであった。お体の事情で参加いただけない方も、かなりおられた。

(2) これまで

鈴鹿高専陸上部OBが、気さくに集える土台を作られたのは、一期生である。特に、一期生伊藤豊嗣先輩のお力が多大である。スポーツを愛する心、母校へのそこはかとした想い、恩師の気さくさ、そして軽めの

ノリ。そんなこんなのお気持ちのまじりあいの中で、これまで、全国各地で小規模の集まりがあった。

大きな区切りは、2013年夏に一期生が中心になり開催した『いちなな会』である。一期生から七期生までが、一泊二日で、伊勢で合宿した。現役のころの合宿といえば、朝から晩まで、ただひたすらに走るのだが、今回の『合宿』は、夜の宴会に参加すること以外、制約なし。この折、「これで、皆が集まるのも最後だね」と言いあったものだが、その後、七期生より若手にも、多くの陸上部OBがいるじゃないか、ということになり、今回の拡大OB会開催となった。この流れの中で、本郷さんに会長を引き受けてもらった。

(3) OB会当日

2016/1/30、昼下りから、鈴鹿市白子のホテルグリーンパーク鈴鹿に、陸上部OBたちが三々五々集まり始めた。さすがに、みな懐かしく、開場前からロビーのあちこちで話の輪が幾重にもできた。数十年の時の流れを、たった数時間で埋めるのは困難との判断のもと、卒業年代順の丸テーブル配置とした。同じテーブルには、連続した数期の仲間のみが陣取ることとなり、話が弾みやすい背景ができた。

山本の進行のもと、本郷会長の挨拶に始まり、勝田先生の傘寿のお祝い、勝田先生のお孫さんで日本の走り高跳びのホープ、鈴鹿高専四十五期生(H23/3卒)衛藤昂(たかし)君への激励金のお渡し。衛藤君は鈴鹿高専陸上部OBであり、かつ、リオオリンピック走り高跳びに出場されたことは記憶に新しい。当日は所用



があるとのこと、母上が代理で出席くださった。一期生の皆様へは、本郷会長から古希へのご健康お祝いのねぎらいの言葉をかけさせていただいた。本件、予算窮乏とはいえ、古希の方々に記念の品を差し上げるべきだったと、猛省しているところである。

勝田先生のアルバムから借用した資料と写真で、これまでの陸上部の歴史をスライドで振り返ってみた。まだハイティーンだったころのパノラマが現れた。会場にいる全員が、グラウンドで主役だったころの、懐かしい風景である。

当日、全員にショートスピーチをしていただいた。ご挨拶を聞くと、なぜか、現役当時の印象がそのまま湧き上がってくる。人柄とは面白いもので、数十年の時空を飛び越えて、現役の頃そのままの人格が、目の前でお話されている。

当時のキャラクターを思い出す貴重な瞬間であった。当日は、大先輩方を除き、みな何時にホテルに戻ったか定かでない。二次会までは幹事が仕切ったが、あとは自由。白子の町は、一晩中大騒ぎであった。

(4) エピローグ

二十歳の年齢差と数十年のブランクを、すぐさまに取り除くことは難しかったが、『グラウンド』という共通項を持つ仲間意識が、垣根を低くしてくれた。みな健康の問題を避けては通れないので、次の機会に揃えるかどうかはわからない。それもあって、今回限りにとの思いが強かったが、当日本郷会長から、次回開催希望発言が飛び出してしまった。次回は、五年後開催、十三期生の内山賢一君に後を託すこととなった。

懐かしい思い出を胸に、翌日、皆それぞれの日常へと戻っていった。

優勝は杉森正明君(47C) NET74、2位に榊茂之君(60H) NET74、3位に鈴木茂君(61C) NET75でした。グロススコア部門では1位山口貢君(50M) 80、2位小島肇君(42M) 82、3位杉森正明君(47C) 92でありました。グロス2位の小島肇君は古希にも拘わらず見事なスコアで上がってきました。日頃の鍛錬の結果と敬服する次第です。対象的に古希の小手川君(42C)は

体調不良のためハーフでリタイアしました。日頃の健康管理に問題有りとして反省しておりましたので来年のリベンジに期待です。

終了後の表彰式では星野克明会長から優勝者の杉森君へ優勝杯が手渡されました。杉森君の優勝スピーチをお聞きし、来年の再会を楽しみにして散会となりました。



第2回鈴鹿高専OBゴルフコンペ開催

実行委員会事務局

第二回大会は平成28年6月18日、昨年に引き続き津市芸濃町の鈴鹿カントリークラブで好天の下開催されました。参加者数は48名(昨年は40名)と昨年を上回ることとなり関係者一同大変に喜んでおります。特筆すべきは紅一点坂井治美さんの参加がありスタート前全員集合の時に挨拶をされ雰囲気がいっぺんに和やかになって皆さん気分よくスタートしていきました。出場者の年齢差、学科の違いがあっても同窓の仲間と言うことで和気あいのプレイとなりました。鈴鹿高専の卒業生と言う仲間意識はこれまでの様々な経験の中で心強く特別の思いがしております。



第2回鈴鹿高専OBゴルフコンペ

2016年6月18日 鈴鹿カントリークラブ

氏名	氏名	氏名	氏名
大田見雅彦 42E	益川 賢市 42E	川西 宏次 43M	星野 克明 42C
三林 浩 57H	柏木 忠浩 57H	榊 茂之 60H	
伊藤 栄一 48E	鈴木 幸行 46M	立磨 士郎 46C	伊藤 真 48E
浜口 精隆 47C	野崎 博史 47C	諸戸 眞 47C	鳥居 信吾 48C
藤川 勝彦 50H	西川 幸嗣 50H	松見 秀敏 50H	千種 敏一 50H
室 真市 53M	寺本 勝治 52M	安田 忠利 53M	寺本 正和 54M
山中 伝男 50H	近藤 幸生 51C	長坂 伸司 51C	
小島 肇 42M	長谷川俊男 42M	相地 敏之 52M	坂井 治美 01E
小手川 智 42C	松尾 文夫 48C	大井 豊 48C	中野 郁雄 48C
加藤 友治 47C	打田 武 55C	内田 賀久 47E	荒木田秀明 47E
疋田 一美 47M	原 雅人 47M	田中 高好 47C	杉森 正秋 47C
鈴木 茂 50H	若林 容次 61H	長岡 信治 61C	
鈴木 誠 50M	南部 勤 50M	山口 貢 50M	



「鈴鹿高専茶道サークルOB会50年の歩み」

香風会(茶道サークルOB会)

昭和42年に社会人としてのたしなみとして始めた茶道が、昭和45年の高専祭で無謀にも初めて野点にチャレンジしました。

翌年から野点が茶道サークルの活動の中心となり、今でも現役から「野点」の案内をOBに発送して頂いています。

その、呈茶券に引き寄せられるように、全国から先輩方が官舎にお邪魔していたと聞いています。

その中心にはいつも昭子先生と、学生とOBを見守ってくれる故加藤政寿美 鈴鹿高専名誉教授の姿がありました。

野点の呈茶券のお陰で、昭和52年にOB会が発足し、第三回には「香風会」と命名し定例化していきました。

今思えば、ご迷惑だったかなと思いますが加藤家のイベントにかこつけて有志が度々集まりました。香風会の全体の集まりに加えて東京、大阪、名古屋で数えきれない会合(飲み会)が開催されました。先生をはじめ加藤家の皆さん大変ご迷惑をおかけしました。



「和同会館で徹夜して竹圍いを」みんな燃えてました!! (実は、お化け屋敷を作るのかと心配で…心配で…昭子先生の後日談)



「風香る五月に集う仲間の会」…40年続いています。(風に吹かれてふさふさの頭髪が…懐かしい)



「平成10年子供の日 香風会で加藤先生のお宅に集合して〇〇〇覚えてますか?」

「お泊り旅行の計画です! 湯の山のペンション(きんこんかん) 沢山お酒飲みました」

「平成22年 昭子先生も退官 茶道&花道で感謝の集い 於: 四日市白梅」

最初は3名?で始めた茶道サークルも今は茶道部となり鈴木先生の指導の元、現在の部員は31名(女24名、男7名)になりました。青峰会館2階セミナー室(和室)で、お茶の心を学んでいます。お手前はもちろん部員間のコミュニケーションと試験前には部室でテストの強化合宿も?現役学生の皆さん勉強&クラブに頑張ってください。

最後に平成26年1月2日に他界された加藤政寿美先生のお話をさせていただきます。葬儀当日は快晴。安置されていたお茶室から、香風会のメンバーで丁寧に霊柩車まで棺を運ばせて戴き、本館前を通りお別れをしていただきました。戒名の「高専院積壽照」で分かるように高専をそして我々学生を本当に愛しておられた先生でした。

平成27年10月10日の高専祭に合わせて、香風会のメンバー40名で「加藤先生を偲ぶ会」を開催しました。最後に、今回の記事をご覧頂いた皆さんは、青峰同窓会の素晴らしい先輩や後輩の皆さんとクラブや同窓会のつながりで活動していますか?香風会の活動は有志の皆さんの企画によりこれからずっと続きます。きつと

編集委員:48E伊藤栄一・56E藤原孝弘・57C石川ひろみ



平成27年10月10日高専祭 当時の昔話で懐かしい思い出と出会えました。故 加藤政寿美先生ありがとうございました



電気工学科47年卒のクラス会 京都 聖護院御殿荘にて

南井三治・武村聡史(47E卒)

昭和42年入学・昭和47年卒業電気工学科のクラス会を9月3日土曜から一泊二日で、古都京都、熊野神社近くの「聖護院御殿荘」で開催しました。前々回、榊原温泉で開催した還暦クラス会の時に、時間的に余裕ができてつたので観光旅行を兼ね、また地域を持ち回りで開催した方が参加しやすい人もいないのではないかと、関東地区、東海地区、関西地区で順番に幹事役を務め、回り持ちで開催しようということになりました。今回は関東地区の担当で伊豆の伊東温泉で開催され、今回はそれから2年ぶり、卒業以来8(?)回目(地区でのものを入れると11(?)回目)のクラス会になります。クラス会の名簿にはすでに故人となった4名を含めて、一年生の時のクラス全員42名の名前がありますが、今回のクラス会には関東から7名、東海から6名、関西から6名、千葉から岡山までの合計19名の参加がありました。実に44年ぶりに再会する人もあり、たいへん感激しました。入浴の後、午後六時から故人への黙祷の後、開宴、本場の京懐石を堪能しながら歓談しました。悠々自適の暮らしに入っている人、定年後の再雇用で勤めている人、現役時代とは全く別の職業に就いている人、立派な企業のオーナーであったり、要職に付いている人など様々でしたが、各々の長い人生経験に裏打ちされたお話に互いに共感、共鳴



しあって、たいへん貴重な時間を過ごしました。宴会の後には、部屋で男同士の旧交を温めたり、祇園に連れて行ってもらったりして、京都の夜を楽しみました。翌日は数人でゴルフをする人、京都観光をする人、なかには会場から京都駅まで約5キロを歩く人など、またの再会を誓って、みんな思い思いの方向に散会しました。

幹事が会場を去るとき番頭さんから聞いたことですが、息子さん(娘さん)の結婚式披露宴の打ち合わせのために「聖護院御殿荘」を訪れたご婦人が、「歓迎 鈴鹿高専47Eクラス会」の看板を見て、「私も鈴鹿高専の卒業生です」とおっしゃったとのことでした。偶然の一致にびっくり、あらためて鈴鹿高専同窓生の広がりを実感しました。次回は、一年から二年後に東海地区で。幹事の荒木田さんと加藤さん、よろしくお祈りします。

定年退職を迎えて



教養教育学科
細野 信幸

感謝と感動の40年

昭和51年4月に鈴鹿高専に奉職して以来40年、長い年月を勤めさせていただいた本校を、この3月で定年退職させていただくことになりました。

さて、私が初めて本校を訪れ、初代校長の木村和三郎先生のところへご挨拶にお伺い

したとき、先生からは思いもよらない言葉をかけられました。君はやくざか?突然の言葉に啞然として、私の口から出た言葉は、「いいえ細野信幸です」とお答えすると、間髪入れず、「そんなことわかっている。髪型のことを言っているのだ。髪型は七・三の刈り上げだ。わかったらもう一度出直しなさい。」そのとき、私はとんでもないところに来てしまったという気持ちで校長室を後にしました。しかし、気がつけば一ヶ月後、校長先生の笑顔を拝見しながら、興味を注ぐ話を聞いている姿が校長室にありました。もちろん頭は七・三の刈り上げでした。

このようにして、私の高専教員生活は始まりました。全寮制と朝の武道が高専の誇りだという校長先生のお言葉に心を打たれ、毎日始発電車に乗っての通勤でした。今その当時のことを振り返っても本当によく頑張ったと自分自身を褒めてやりたいです。そして、二度と出来ることではないと言うのが感想である。投げ出したいと思うこともなかったわけではないが、部員でもないのに文句一つ言わず、朝早くから頑張っている学生の姿を見たとき、そんな弱気な気持ちも逆にやる気に変わっていったのです。私は立派な研究者になりたいという思いより、一つでも良いから何かをやり遂げる立派な教師、指導者になりたいと、日々自分に出来ることを模索しながら努力を重ねました。クラブ指導や、生活指導(挨拶運動)についても、あまり良いことを耳にすることはありませんでしたが、やらない大勢の人の言葉よりも、頑張る少数のひとの言葉に勇気をいただき、自分にできることを最後までやりきろうと言いつつ聞かせながらの40年間でした。卒業生を含む学生達に

感謝の言葉以外思いつきません。

私は鈴鹿高専が二校目の職場です。どちらの学校においても学生がいなかったら、鈴鹿高専で定年を向かえることも、部員がいなかったらクラブ指導も出来なかったからです。だからこそ、もっともっと学生達を大切に、そして、学生時代には感じる事が出来なくても鈴鹿高専を巣立った後に、学生時代を振り返り笑顔で語り合える母校であれば、なおさら嬉しい限りです。クラブ指導でも同じで、監督初期の頃は、他校の選手達をうらやましく思う気持ちが強かったことを思い出します。しかし、今いる部員と切磋琢磨しながら、勝利を手にしてからは不思議とそのような気持ちとは無縁になっていきました。それどころか全国の頂点に上り詰めてからは、自分の意志で能力(技術)を身に付けた剣士が、学力の壁にも打ち勝ち入学するようになってきました。

指導者として忘れてはならないこと、それは、「優秀な中学生を集めるだけではなく、優秀な学生に育てる。」ということだと考えています。誰もが賢くなりたい、能力を身につけたいという気持ちは持ち備えているでしょう。となれば、どの進路に進めば自分の能力をのびさせることができるかと考えるのは当然のことです。そして、そのような意志を持った学生の成長を見届けたいという気持ちに正直でありたいと思い、再雇用教員として、もう少し学校にお世話になることにさせていただきました。ただ、膝に爆弾を抱えたような状態で、今まで以上の授業をこなせるかは疑問ですが、「学生達の笑顔を頼りに頑張らせていただきます。」ということで、このテーマでいくと最後は「有り難うございました」という言葉で拙文を締めくくるところですが、今後ともよろしくお祈りします。ただし、けじめの言葉として次の文言を述べさせていただきます。

本校で40年という長きに渡り、数々の思い出と温かいご支援、ご指導をいただきました教職員の皆様、ともに汗をかき、涙を流した学生達に心から感謝の気持ちで一杯です。そんな鈴鹿高専の益々の発展と、ご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。



生物応用化学科
生貝 初

退職にあたって

1998年の春に家族とともに鈴鹿にやってきて瞬く間に18年が過ぎました。何はともあれ無事に職務を全うできて本当によかったと思っています。その間、鈴鹿高専では高専教育の大きな改革が始まり、独法化とJABEE審査が実施されました。

また所属する工業化学科は生物応用化学科へ名称が変更され、コース制が導入されました。さらに学科の研究室がある2号館の改修工事も行われました。

鈴鹿高専にいた18年の間に20世紀から21世紀に替わりました。20代ぐらいまで、西暦2000年は遠い未来のように感じられ、漠然とした新世紀でした。2000年になると47歳、生きていだろうかなどと考えていましたが、2000年の元旦は何事もなく無事過ぎました。この節目で体験した感覚は、47歳はとても若いというだけで特別の感慨はありませんでした。

さて、21世紀に入ってから今日までの16年間に世界中を驚かせ、そして深い悲しみと絶望感に襲われた大ニュースが米国と日本でそれぞれ1件ずつありました。最初の大事件は2001年9月11日に米国ニューヨークで起きました。その夜、A寮の寮監でしたがテレビを見ていなかったため、翌日までその重大事件を知りませんでした。その割、この事件のことは今でもよく覚えていて、ツインタワーが崩壊していくシーンを見るたびに、憤りとともにテロリズムによる愚行・蛮行を呪わずにはいられません。さらに10年後の2011年3月11日に日本では東日本大震災に襲われました。その後に続いた福島原子力発電所の津波の被災によって引き起こされた空前の放射能汚染は現在も解決の見通しが付かない未曾有の重大事故になっています。その他、温暖化によるといわれている風水害、火山の噴火、テロ、戦争がわずかに10数年の間に数多く起こり、個人ではどうすることもできない自然や人々の心の変化に対して関係ないとはいってられない時代に突入したことを強く認識せざるを得なくなったように思います。

さて世界中が激しく移り変わっていく流れに同期

するかのよう科学の世界でも同じように激しい変化がやってきました。まずはITの進化、あらゆるテクノロジーの中にITが入り込み、非常にうまく我々の生活に溶け込んで活用されていると思います。同じように生物を研究する領域でも僅か20年に満たない短時間で急激な変化を研究活動に起こしました。ここで将来研究者を目指す若い学生の皆さんのためにこの変化について少し触れておきたいと思います。

最近、生物系の研究において生物材料は細胞でもタンパク質でも遺伝子組換え体を使用し、これに併せて高価で特別な研究機器を用いて研究することが多くなりました。このような研究は、バックグラウンドの異なった研究者が集まって行うことが多いようです。私が研究しているテーマでも生物や化学の先生だけでなく、材料や電気、機械工学系の先生が集まって仕事をしています。1990年代ではこのような研究体制をとるプロジェクトはほとんどありませんでした。また、いろいろなことを知っておいた方が、研究を円滑に進めていける可能性は高くなると思います。私は今、自分の研究材料をSpring-8のX線で断層撮影し、3次元可視化を試みています。私にとってこの解析は異分野の研究技術であるため非常にハードルが高く、研究仲間の手を合わせて何とか解析を進めている状態です。幾つになってもアッセイ法の開発やデータ解析にほとんど時間を取られるのが研究です。異分野の勉強を1つ制覇しておくことで問題が起きた時に解決法を見いだせる情報を得るチャンスが高くなるように思います。私は最初に原子力工学(工学部)と放射線生物学(工学研究科修士課程)を学んだ後、医学微生物学(医学研究科博士課程)を修めました。そのおかげで医工連携など異分野の研究者が集めた研究に参加する機会が増えました。学生の皆さん、大変でしょうが複数の専門を制覇すると結構研究をうまく進めることができるようです。

最後に、本稿を書く機会と紙面を作ってくださいました鈴風の編集委員の先生方に感謝申し上げます。また鈴鹿高専の教職員の皆様、学生皆さん、長い間本当にお世話になりました。



教養教育科(国語)
西岡 将美

おかげさまで

—「その場その時 自己完結」—
卒業生の皆さん、お健やかにお過ごしですか。在校生の皆さん、お爺さん先生の授業に最後までおつきあいをいただき、ありがとうございました。教職員の皆様、長きにわたりご指導ご鞭撻をいただき

感謝のこともございませぬ。いよいよ、本校での教員生活もあとわずかという年の瀬に、本原稿を纏めています。表題通り、まずは「おかげさま」の気持ちで、恙無く3月を迎えることができるように、後一頑張りです。

振り返れば、昭和の終焉、63年度に当時の近畿大学熊野高専から本校に横滑りの形で採用されました。しかし、当時としてはかなり稀なケースで、双方の事務担当の方が「珍しいですね」とおっしゃったことを覚えています。私の採用時の校長先生は故久保田郁夫先生で、実にフランクに「採用試験」を実施していただきました。ありがとうございました。

さて、小生の略歴の中にこの数字とご縁があるのか思うくらいの2つの数字、それは「37」「28」です。「37」は出身大学の皇學館大学、初任地の大阪の啓光学園中学高等学校、続いて近大熊野高専、そして、本校がすべて昭和37年度創立の学校です。次の「28」は、小生、昭和28年生まれで、本校の勤続年数が28年間、そして、平成28年3月に退職という、まあ、記憶力が乏しくなっていくこれからの思うと、語呂合わせて的には「覚えやすい」ということで気に入っています。

ところで、本より浅学菲才の小生が、なぜ、教員になろうと思ったそもそものきっかけが、出身地の尾鷲市三木小学校3年生から5年生までの3年間、当市江島町出身、女の担任の先生に起因します。その

先生の魅力に取りつかれて以来、上級学校に進学するたびに、「あこがれ」の先生を見つけては、その時々にご指導を仰ぎ、僕もあの先生のような教師になろうと、いうなれば、井上靖の「あすなろ物語」のように、「あすは教師になろう」と夢を追いかけてきました。さらに、大学時代の「弓道部」では、先輩のことがたさ“、それに、同輩との切磋琢磨することの”たいせつさ“を学ばせてもらいました。そのときに鍛えられたものが、教員になってからも礎となり、豊かなころを持った学生を育てる指導の基本となっているのだと感じています。

小生の「その場その時、自己完結」の合言葉は、今できることを精一杯努力すること、結果だけのためではなく、努力する過程から得られるものを、教師としてのやりがい、生きがいにしようと考えました。3年前まで担当した弓道部では、その指針として「学校生活を充実させるためのもの」、「結果」のみに終始せず、部員としての「自覚(ク)・誇り(リ)・責任(ン)」を持たせる「クリン作戦」を実践した25年間でした。本校奉職前の2校に11年計39年間でした。

最後に、私事で恐縮ですが、本校28年の在職中に、小生にとってかけがえのない二人を失いました。一人は20年前に母(64歳)を病気で、そして、3年前、小生が校長補佐(学生主事)を退いたその年の9月に、国内航路で機関士をしていた実弟(57歳)を、あり得ない理不尽な中国船の航路妨害の海難事故で一瞬のうちに失いました。恐れながら、この二人は、小生の天職、「教師業」の一番の応援者であり、一番の理解者でありました。生きておれば、「無事に終わったよ」のことも「生きたことば」になる筈でした。年度末、尾鷲片田舎の「墓前」に赴き、「合掌」してこうと考えています。拝





総務課長
藤田 時子

安心安全への願い

昭和63年に三重大学から鈴鹿高専へ赴任して28年間、楽しかったことや辛かったこといろいろありましたが、あっという間に時間が経ち、本年3月をもって定年退職を迎えることになりました。たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

高専祭、体育大会及びロボコン大会など、様々な行事でたくさんの学生さんたちと接することができたこと、また学生会の役員たちと交流をもてたことは思い出に残っています。少しやんちゃな学生もいましたが、学生の若さと元気さに、いつも私はパワーをもらっていました。

30周年から50周年記念行事を経て、平成16年には独法化となり事務も目まぐるしく変わっていきました。校舎はすべて耐震改修も終わり、クリエイションセンターやイノベーション交流プラザも完成して校内は見違えるほど綺麗になりました。

2015年の漢字は、「安」でした。快筆された清水寺の森清範貫主は「今年の不安を払拭して、来年は安心安全な社会をつくってほしい」という総意ではないか」と語られたそうです。

今年は社会的にも不安のない、自然災害も起こらない、外国へも安心して行ける安心安全の年になってほしいと思います。鈴鹿高専は“ロボット”“水素”などで特色ある高専を目指しています。

ものづくりの目覚ましい発展に伴い、ロボットを使ってより安心安全な社会が来ることを願っています。

この28年間で、教職員・学生のみならず、教育後援会役員・保護者のみならず、企業や他大学のみならずに出会えましたことは私の宝です。

鈴鹿高専で無事に大過なく勤め上げることができましたのも、みなさまに支えていただいたおかげだと深く感謝しております。

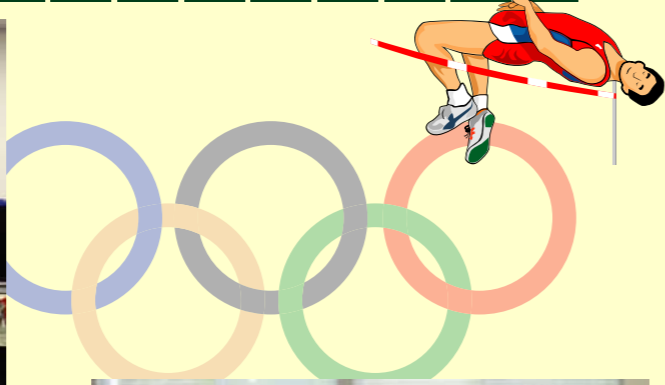
みなさまのご健勝と鈴鹿高専のますますのご発展を祈念いたしまして、最後のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

リオ五輪出場の衛藤選手へ激励金贈呈



リオ・オリンピックの陸上男子走り高跳びに出場した衛藤昂選手（平成23年3月材料工学科卒業、平成25年専攻科修了）が、9月14日に帰国報告のため本校を訪問されました。その折、小手川会長より青峰同窓会からの激励金を手渡し、リオ・オリンピックでの健闘を労いました。

衛藤選手は初出場した今回のオリンピックでの体験をお話になり、4年後の東京オリンピックに向けての抱負を語られました。



新任教員挨拶

「鈴風」138号より転載



教養教育科
長井みゆき

着任のご挨拶

本年度から教養教育科に着任しました、長井みゆきと申します。英語IAと英語VCを担当しております。右も左も分からないままのスタートでしたが、先生方や職員の方たちからの丁寧なご指導のもと、前期を無事に終えることができました。

私は、学校での英語の成績は決して良くはありませんでした。中学生の頃から洋画を好んで見ていた私は、俳優のセリフやジョークに織り込まれた日本と異なる歴史や文化、その時代背景などに触れることを楽しんでいました。そして映画館以外にも、深夜のテレビ放送を見たり、VHSテープをレンタルしては、日本語字幕と比べながら、断片的に聞き取れるセリフの量が次第に増えてゆくことは、自分の励みにもなりました。しかし当時の高校ではリスニングは皆無、大学入試にも出ません。その上、私が聞き取れたセリフは単純な構造のみ、構文の定着にも役立つことはありませんでした。「そばかす」や「地方検事」なんて単語は高校の試験には出ず、このような「予習」は、学校での英語の成績には全く反映されませんでした。そして、英語は好きだけど苦手、という意識は持ちながら、英語教師になりたいという目標は持ち続けておりました。

その後、実際に英語を使用する機会が訪れました。留学したアメリカの大学院では、読み書き中心だった

日本とは違い、とにかく話し、自己主張しないと評価を得られない世界でした。TAとして学生のライティング課題を校正している私よりも、その課題を出されているESL科の留学生や移民の学生たちの方が弁が立ち、担当教員との交渉も巧妙でした。消極的だった私には、かなり苦勞した毎日でしたが、背に腹は代えられません。とにかく当たって砕けるの精神で、ゼミ仲間や教員と積極的に交流し、アメリカの流儀を学ぶことができました。意見が異なるたびに自分の考えを主張し、根気よく相手を説得しなければなりません。相手は多種多様な人種や宗教、文化や職業をもつ人々です。日本人のように、察してうまく事を運んでくれることもありません。英語ももちろん大事ですが、それを使つての伝え方が、とても重要だとその時気づかれました。

大きな抱負を持って、帰国後教鞭をとりましたが、年々学生気質も変わり、まだ道半ばで自分自身の理想にはほど遠いのが現状です。鈴鹿高専の皆さんが、英語をコミュニケーションの道具としてより自由に扱えるようになるまで、志を目標に手探りしながら共に歩もうと思います。皆さんが社会人になれば、海外との折衝や海外進出の機会に出会うこともあり、在学中に積極的に英語を学ぶことは将来への投資となります。未来への期待を膨らませ、一緒に前へ進んでいきましょう。将来への投資の為に。そして英語と同時に、より多くの人々とたくさん触れて、コミュニケーションの技を習得していきましょう。



電気電子工学科
橋本 良介

着任のご挨拶

鈴鹿高専の皆様、本年度から電気電子工学科の助教として着任しました橋本良介です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私の出身は三重県度会郡度会町で、本校の卒業生および専攻科修了生です。改めてご挨拶を申し上げます。

着任してから数か月が経過しておりますが、懐かしさを感じることも多く、特に寮直関係の仕事では感慨深いものがありました。私は、中学校を卒業してから、多くの高専生と同じく15歳で親元を離れて寮生活を始めました。長年生活してきた実家を離れるのは少し寂

しく、また慣れないことも多々あったことを記憶しております。しかし、今となっては良い思い出で、自分を成長させてくれた場所だと感じました。

さて研究のことについても少しご紹介させていただきます。私は、専攻科でネオジム磁石を利用した携帯型発電機開発の研究に携わりました。以降、現在に至るまで磁性材料の研究に従事しております。専攻科修了後は、豊橋技術科学大学に進学し、磁気光学薄膜の研究を行いました。薄膜磁界センサを利用して、亀裂のような欠陥から漏れ出る磁界の検出を行う非破壊検査に関する研究です。薄膜といっても定義は曖昧で馴染みのない方もいらっしゃるかと思います。私が扱っていたのは、厚さ0.5マイクロメートル程度の磁

性薄膜です。どうして薄膜なのかと一言で申し上げますと、光を制御するためです。光は、波長が0.5マイクロメートル前後の電磁波であり、電気と磁気の影響を受けます。従って、磁気を利用して光が制御できます。しかし、光を制御するためには、同じスケールの磁性体を利用する必要があります。例えば、豆を掴もうと思ったら、その豆と同じスケールのピンセットが必要です。誰もクレーン車を利用して豆を掴もうと思わないはずで、従って、光を掴むためには、同じスケールの0.5マイクロメートル前後の磁性体が必要になります。だから薄膜なのです。磁性体は、ナノメートルオーダーの微細な磁区の集合体であり、それぞれの

磁区が独立して磁界を検出することができるため、センサ自体の物理的な大きさに影響されずに、高空間分解能な非破壊検査が可能である点が最大の特徴です。このような非破壊検査応用に適した薄膜センサの構造を設計し、非破壊検査に応用した際の特性をまとめて、博士号を取得しました。今後、高専では自在に曲がり光が通る磁界センサを、学生さん達と開発したいと考えております。

まだまだ経験不足の若輩者ではありますが、責任と熱意を持って教育・研究活動に従事していきたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

「鈴風」138号より転載

鈴鹿高専に赴任して



教養教育科
澤田 圭樹

みなさんこんにちは、平成28年4月より教養教育科(理科)に着任しました澤田圭樹と申します。このたび人事交流制度で鳥羽商船高等専門学校から鈴鹿工業高等専門学校にお世話になることとなりました。担当科目は1年・2年生の教養教育化学と

なります。学位は理学の物理化学で取得しており、専門は結晶構造解析を応用した固体反応化学です。たった2年間ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。

昨年度までは、三重県内の鳥羽市にある鳥羽商船高等専門学校で12年間一般教育の化学を教えていました。ちなみに、「鳥羽商船」ときいてどんなイメージがありますか？歴史的には1881年に設立された攻玉社商船製分枝を祖にする商船学校から、いくつかの変更を経て1967年に商船高等専門学校へと衣替えをしている、商船に関する学科を中心とする学校でした。年号が平成に変わるころ工業系学科が創設され、現在の「商船学科」「電気電子工学科」「制御情報工学科」の3学科体制になっています。ほとんどの高専は「鈴鹿高専」のように「〇〇高専」と省略されますが、鳥羽商船高等専門学校は「〇〇商船」と省略することから「高専」であることが忘れられがちですが、実際は「商船と工業の高専」ですので、お見知りおきを願ひします。

人事交流制度での赴任であり、たった2年間であるため、現在は鳥羽市の自宅から都合2時間かけて通勤をしております。原稿を書いているのはちょうど伊勢志摩サミットの時期でもあり、この通勤を知った方々には「長時間の通勤は大変じゃない？」「警護とか混雑とか大丈夫？」と心配されましたが、三重県南部から

の通勤は人も少なく混雑もしていないため朝の電車は確実に座れるし、サミット会場である志摩市からも外れているため運休とも無縁で済んでいます。大学生や教員として東京に住んでいたとき、20kmほどの距離を2時間かけて電車通勤していたこともありますが、その時は常に150%超の混雑で休まる時もなく「痛勤」の日々でした。ここ三重県では60km超の距離も快適に通勤させてもらっていて、まさに近鉄様々の気持ちです。

高専勤務歴は13年目になるので「同じ高専なのだから」と思うこともある反面、こちら鈴鹿高専に来て、すばらしいなぁと感じる場面も多々あります。教務的なことや学校組織的なことでもよいと感じるところはたくさんあるのですが、学生に関係ある部分で挙げてみると、例えば担任団の制度です。本校では1年生の担任には5学科5人の担任が配属しており、さらには1年生学年主任・担任補佐など総勢8人の担任団で1年生全体を見守っています。担任それぞれの個性を重視しながら、大きな出来事や難しい出来事が発生した場合には担任団としてサポートできる体制となっています。2年生の担任団も同様で、それぞれ独立なうえに強力なサポート体制が確立されているように感じました。これは鳥羽商船高専では見られない制度であり、戻った際には大いに参考にさせていただきたいと考えています。他にも自転車通学者への指導体制や授業・補習・部活動への取り組みなど、考え方ややり方が異なる面も多くみられ参考にできる部分がたくさんあります。人事交流制度を利用させていただいている以上は、この鈴鹿高専という組織の長所をたくさん発見し、戻った時にその経験を生かせるよういろいろ体験していきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

鈴鹿高専OGの集い

日時：10月16日(日)14時から15時
会場：高専イノベーション交流プラザ(旧3寮)1階会議室
テーマ：同窓会女子の部について
参加者：57C西尾真澄さん、58C古田美子さん、58C慶徳純子さんとお孫さん、h07C本間八重さんと娘さん、42C小手川会長、49M小野さん、52H江崎尚和さん(現教務主事)、<事務局>48E伊藤栄一さん



【会長よりご挨拶】
青峰同窓会の同窓生も5000人を超え、また近年女性も多くなりつつある中、男性は結婚、出産、育児等のイベントに比較的左右されず集まりに参加出来たりする機会が多いが、女性は育児に介護になるとなかなか難しい状況である。同窓生に女性が増えて行く状況の中、縦の繋がりが持てる同窓会「女子の部」について意見を求めたい。

【フリーディスカッション】
高専に入学した理由から、卒業してから現在のライフスタイルなど交えながら、女子の部についての必要性や、もし設立となればどの様に参加者を集い、どういったテーマで実施するのが有意義であるかを話し合う。
・様々な年代で、情報交換出来る場になると良い
・近年、部活動でも「女子部」が出来ている。「女子部」に声を掛けていくのも良いのでは

- ・OB会、OG会とあえて分ける事の必要性はないかもしれない。ただし女性も気楽に出席し、ざっくばらんに話せる場になるのが良いのでは
- ・同窓会の開催を高専祭の中で今回のようにイノベーション交流プラザなどで実施、高専祭のパンフレットに、青峰同窓会より広告として載せたり、放送をかけてもらい気楽な参加を呼びかけるのも良いのでは
- ・始めは小さな集まりでも、これを少しずつ広げて、何か出来ることを考えていければ良いのでは

<筆者&事務局所感>
難しいテーマながら終始和やかな雰囲気であり、1時間のかかり濃いフリーディスカッション、内容についてはこれから検討していくことになるが、縦の繋がりが希薄になりつつある近年、この様な新たな取り組みを設けるのも良いかもしれないと思う。

記事作成 本間八重 (h07C卒)

訃報 出口 芳孝 先生

昭和60年から英語を担当されておりました出口芳孝先生が3月30日にお亡くなりになりました。先生は本校電気工学科を昭和48年3月に卒業され、その後進路を文系へと変わられ英語の教員として本校に赴任されました。テニス部の部長を長年担当され学生に慕われておりましたが、体調を崩されました。一時は回復された様子もみられましたが、残念ながら定年退職の直前にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。この会報では、その年に退職された教職員の方の校内報「鈴風」での記事を転載させて頂いております。今年の春の「鈴風」には出口先生の記事も掲載されておりますが、同窓会報への転載許可の返事は残念ながらいただくこと無く、お亡くなりになりました。それで、今回の会報には出口先生の記事は掲載していませんことをご了承下さい。

平成27年度青峰同窓会会計報告書		
	摘 要	金額(円)
収入の部	平成26年度からの繰越金	28,266,230
	平成27年新入会員の入会金・終身会費	2,145,000
	預金利息	5,822
	合 計	30,417,052
支出の部	会報発行経費	869,927
	SNSサーバー構築費・利用管理費	260,280
	事務費	141,781
	先進的エンジニア育成基金寄付(27年度分)	1,000,000
	平成28年度への繰越金	28,145,064
合 計	30,417,052	